

(1) 単元名

縄文のむらから古墳のくにへ

(2) 本単元についてのつまずき

中学1年生の柏市学力調査の全体傾向や経年変化を見ると、「我が国の歴史」における市の平均正答率は全国の平均正答率を下回っている。今年度の問題の中では、渡来人についての問題や鎌倉時代の御恩と奉公の関係についての問題につまずきが見られた。従って小学6年生で学習する日本の歴史における時代ごとの特色をしっかりと抑える必要がある。

(3) 実態解消に向けた指導例

学習指導要領との関連

○狩猟・採集や農耕の生活, 古墳, 大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに, むらからくにへと変化したことを理解する(歴史分野の目標【知識】)

主体的・対話的で深い学びにつながるように、【見出す】→【自分で取り組む】→【広げ深める】→【まとめあげる】のプロセスを単元計画の中に盛り込む。4つのプロセスをワンサイクルで終了させず、途中で振り返りをするすることで、新たな課題を見つけたり、さらに幅広く情報を集めたりする等、複数回サイクルを繰り返してもよい。

【見出す】

- 生徒が主体的に課題を設定できるような素材と導入の入り方を工夫する。
- 単元のまとめ(ゴール)を工夫する。
ノート作り, 新聞作り等

【自分で取り組む】

- 時代ごとの特色とキーワードを結びつける。

【広げ深める】

- 体験的な学習を積極的に取り入れる。
- グループ間での意見交換等も積極的に行い, 自分の調べた内容を整理していく。

【まとめあげる】

- 生徒の発表に対して, 第三者から評価してもらう。
担任以外の教員や他学年の児童
- 他者の評価から新たな課題を設定する。

(4) ICT との関連

新聞作りを行う場合は、「ドキュメント」を活用する。あらかじめ新聞の枠を教員が用意しておき、児童が自分でアレンジを加えることができるようにする。